

市民フォト鹿児島 KAGOSHIMA 鹿児島

No. 53

平成5年(1993年)7月1日

特集・悠久の流れがまちをはぐくむ
～甲突川探訪



わがまち高度

350M

● 犬迫町・北部清掃工場付近

市の北西部にあたる犬迫町は、山や谷を埋めている木々と台地や谷あいの農地が緑豊かな自然をつくりあげている。

写真中央、高さ80メートルの煙突がそびえているのが北部清掃工場。その下に清掃事務所、上部に横井埋立処分場が位置している。ごみはここで

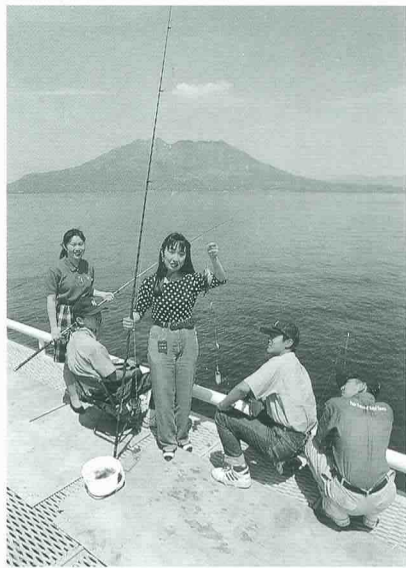
安全に衛生的に処理される。

地球環境にやさしい社会の実現のために展開されている市民1人1日「53gのダイエット」のごみ減量運動。その成果が清掃工場や埋立処分場でも、さらに顕著に表われてほしい。



市民フォト鹿兒島No.53【つぐ】

わがまち高度350M	2
特集／悠久の流れがまちをはぐむ(甲突川探訪)	3～11
クローズアップ(瀬之口シツエさん)	12～13
学校探訪(向陽小学校)	14～15
カメラトビックス	16～17
ハロー鹿兒島(ジェリコ・トウトウニエウイチさん)	18
シティーアングル	19
わたしの散歩道(児玉フミさん)	20～21
市民のひろば(ふれあい生き生き「地域公民館」)	22～24
ふるさとの史跡(見寄板碑群)	25
集えば楽し(鹿兒島四十雀フットボールクラブ)	26～27
あなたのフォトサロン(光の彩に話しかけて)	28～29
動物公園のゆかいな仲間たち	30
市立美術館「ソファに座るマルセル」	31



●「表紙」写真説明

「いつもの遊びじゃ、つまらない」というわけで、初心者二人が釣りにチャレンジ。見よう見まねで釣り糸を垂れて待つこと十分。やっと、アラカアが釣れた！釣りテングの少年たちよ、わたしもなかなかやるでしょ。

(海づり公園にて)

特集 悠久の流れがまちをはぐくむ

〜 甲突川探訪

耳を澄ましてみてください。せせらぎが聞こえてきませんか。

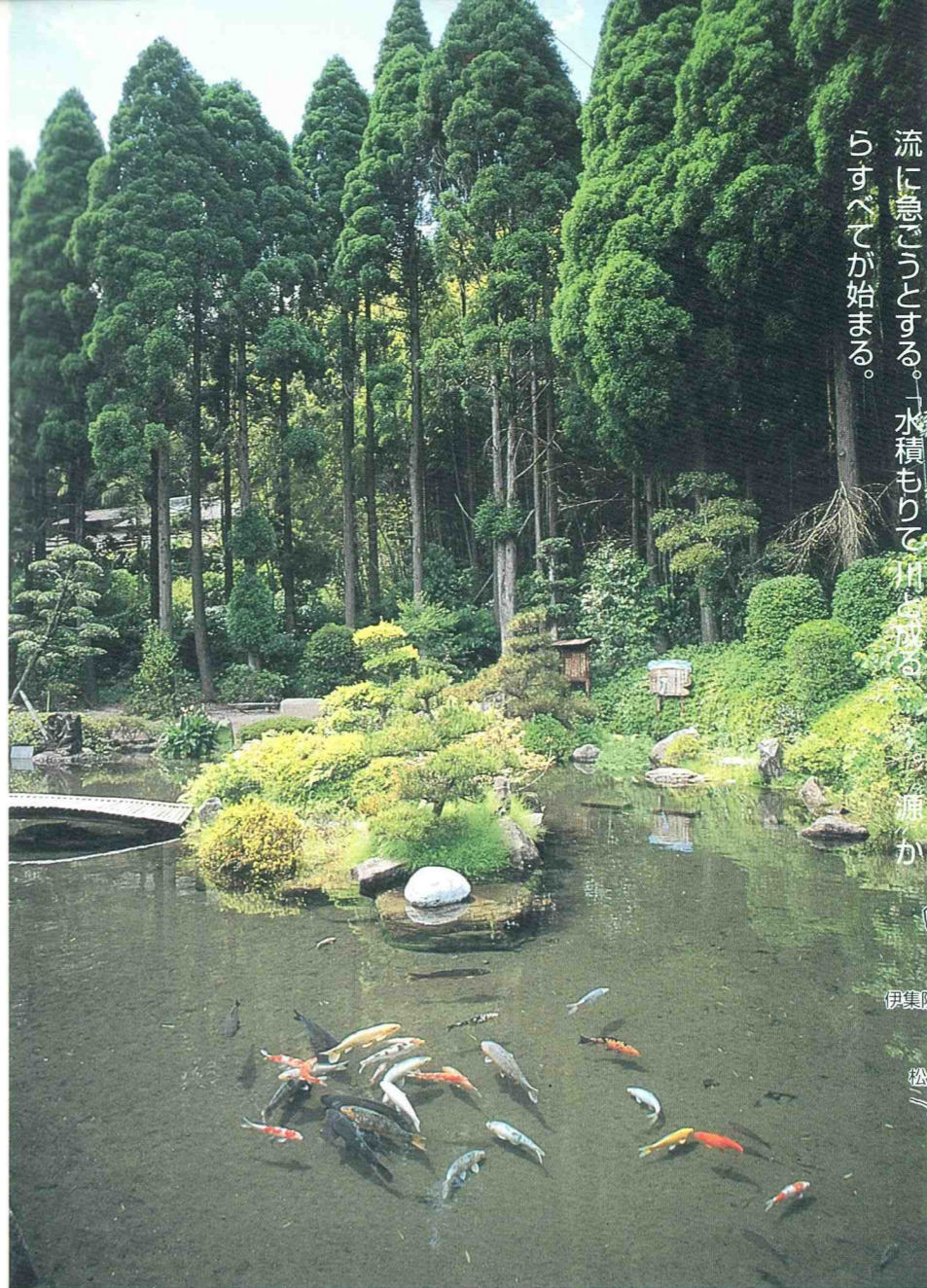
永田川や稲荷川などとともに、鹿児島市の主要河川となっている甲突川。清い流れは多くの生命をはぐくむとともに、私たちにとても大切な水の供給源、自然とのふれあいの場、安らぎの場となっています。最近、甲突川との関係を求める人々の活動が多くなり、水辺を見直す機運が高まっています。

今回の特集では、鹿児島をさらにすてきなまちへとはぐくんでくれる川、甲突川を探訪してみました。

プロローグ「水の誕生」

甲突川の源は郡山町八重山にあった。満々と水をたたえた甲突池は、その名のとおり、まさに甲突川の水の本もと。生まれたての水は陽光を浴び、水晶のようにキラキラと輝いている。

だが、彼らは一時もそこにどまろうとはしない。まるで意思を持った、なめらかな生きもののように、ひたすら下流に急ぐとする。「水積もりで川が乾く」は、源から



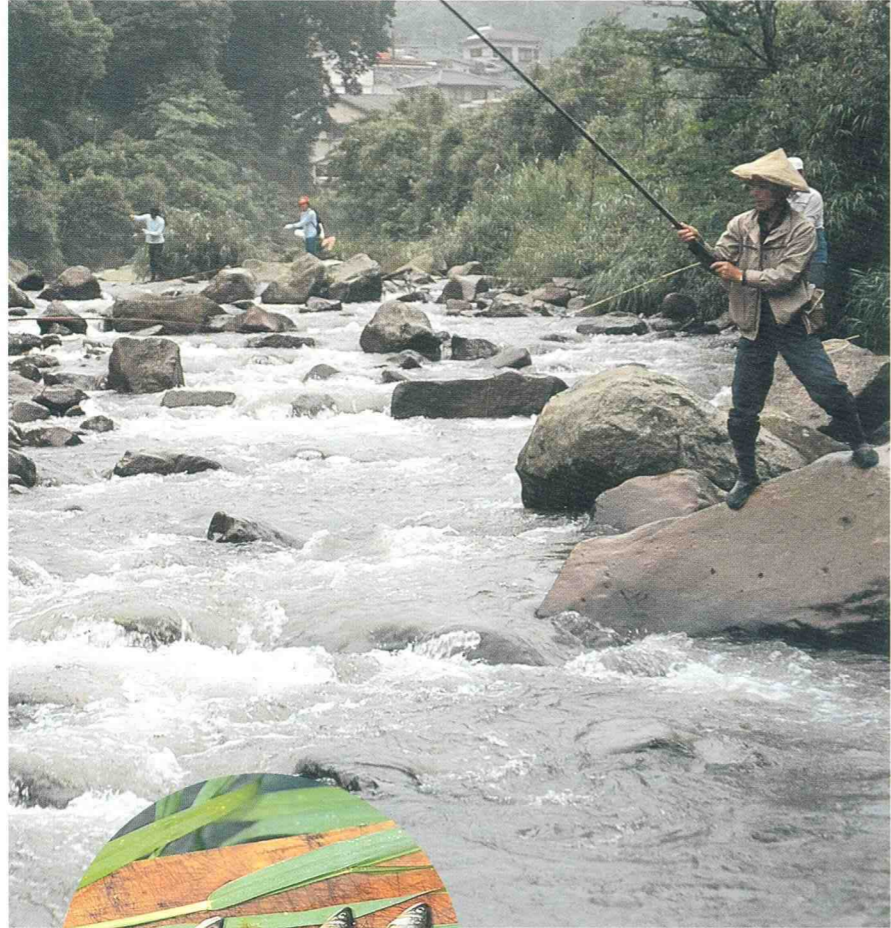
■こんこんと湧き出た清水が甲突池をつくった。(郡山町)



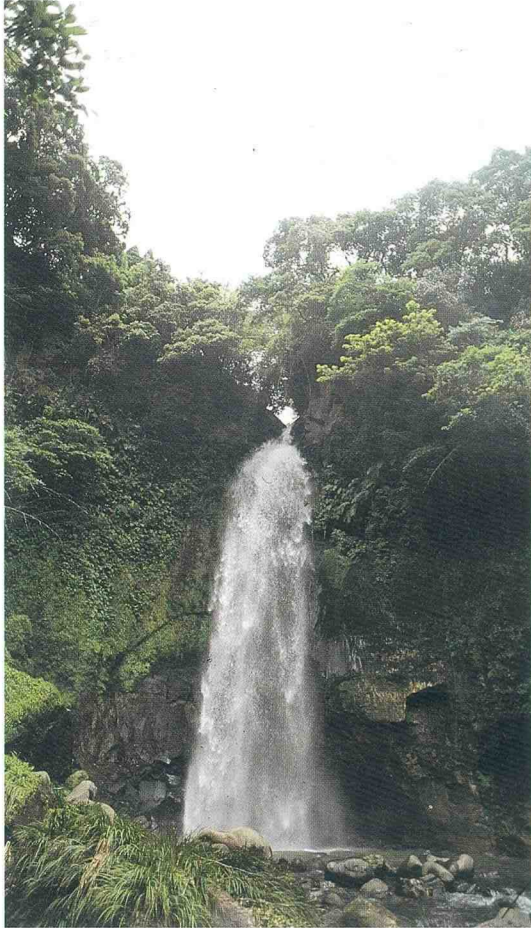
■澄みきった甲突池の水。訪れる人ののどを潤してくれる。



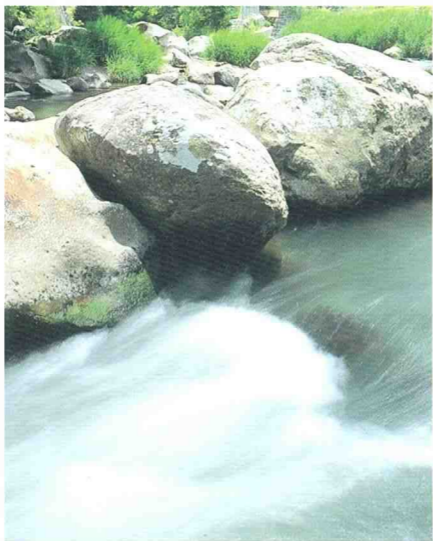
■郡山町を流れる甲突川。川の流れに水草が揺れていた。



■6月の梅雨空にアユの銀鱗がはねる。
～河頭付近は、この時期になると太公望たちでにぎわう。



■約17メートルの高さを誇る比志島の滝
～甲突川支流比志島川(皆与志町)



■小山田付近の渓流



■甲突川を水源とする河頭浄水場。日量11万㎡の浄水能力をもつ。

もっと愛そう、この川を！

甲突川漁業協同組合長
木下 文男さん



今日はアユ漁の解禁日です。ごらんのとおり朝五時からたくさん太公望でにぎわっています。アユやニジマスに限らず、甲突川の魚もこの十年ですいぶん魚影が少なくなりました。あれほど多く棲んでいたハヤや川エビも、今ではすっかり珍しい生き物になってしまいましたね。

ひとたび、川を汚してしまうと再び、もとの状態に戻るまでかなりの年数がかかります。人間の治癒するスピードに、自然の治癒力が追いつけないんですね。

川とともに歩んできた私にとって、甲突川は長年連れ添った身内のようなもの。この川が汚れていると、肉親が血を流しているように心が痛みます。「自分たちの川、この甲突川を、もっと愛しましょう！」その心こそが、この川をもっと元気にするビタミン剤なんです。

豊かな風物

昔は、この川で水を汲み、洗い物をしたというけれど、今は、もう、その姿を見かけなくなった。それでも、川と離れがたい人々の営みがある。
岸辺に建つ家、土手にしつらえられたミニ花壇。通勤や通学、買い物で行き交う人は、川に視線を送っては安らいだ表情になる。そして、甲突川のほとりは日常ばかりでなく祭りやイベントといった非日常の場としても人々をひきつける。その魅力は昔も今も変わらない。



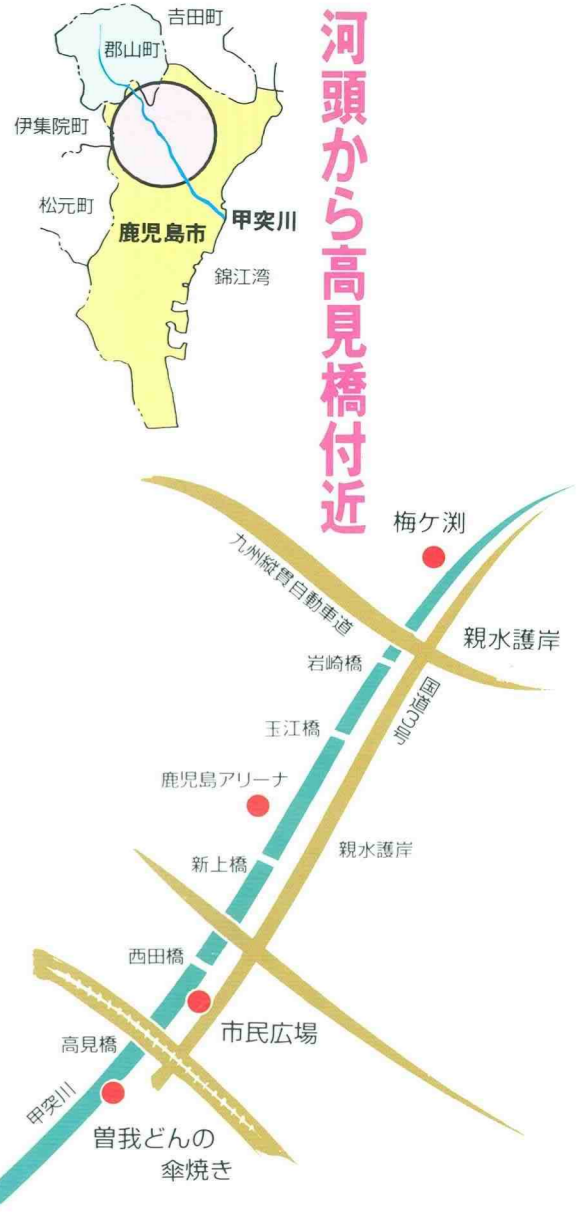
■木陰の販売所。売り手と買い手の信頼の絆は太い。(梅ヶ淵観音入口)



■伝統の遊びを今に伝える「はま投げ大会」。(市民広場)



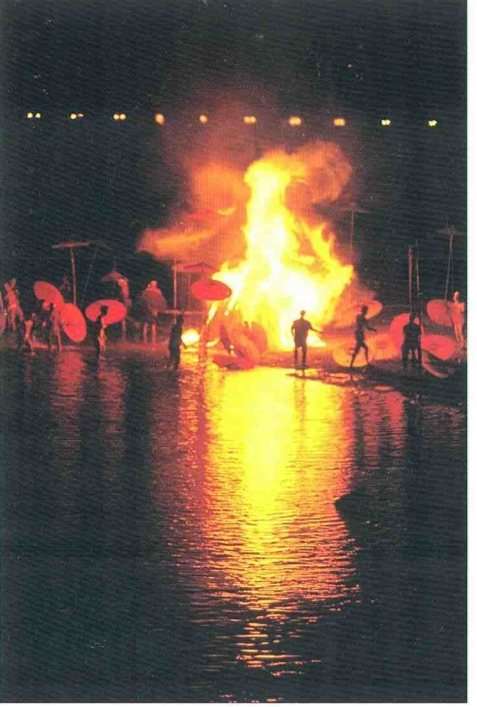
■センダンの枝も凍ってしまいそう。(玉江橋上流)



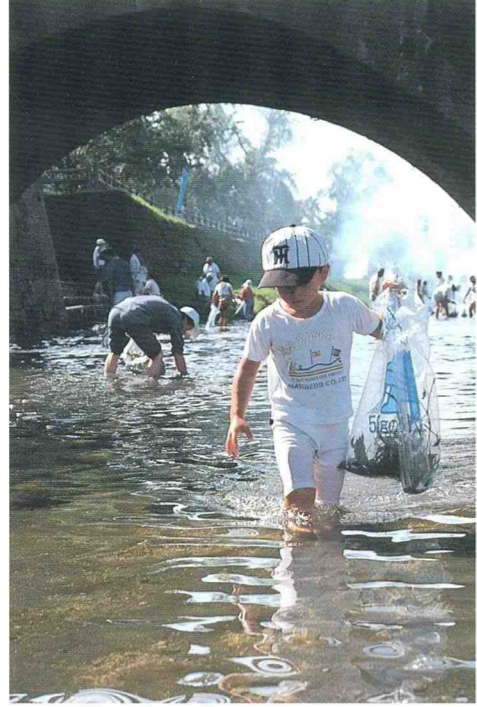
■川にはカヌーがよく似合う～甲突川まつりにて～(高見橋付近)



■家庭の緑化に一役買っている「春の木市」と「秋の木市」。(市民広場)



■川開きの意味もあるという「曾我どんの傘焼き」。



■すっかり定着したクリーン甲突川・新川作戦。今年からクリーンリバー作戦として展開される。(西田橋付近)



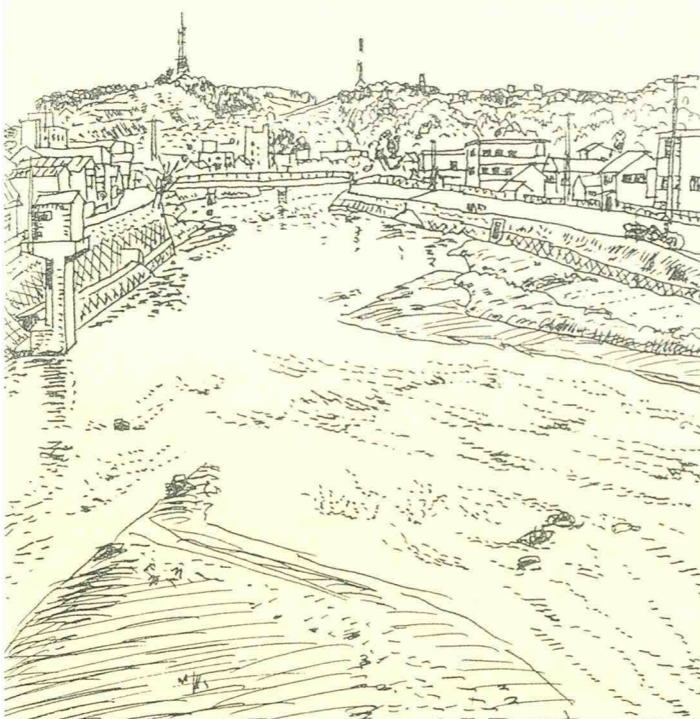
■新春恒例の出初め式。一斉放水が防火の心に虹をかけた。(市民広場)

後世に役立つことがあるだろうと思っ、街をスケッチしています。甲突川は、九年ほど前に河口から源流までをペン画にして、三百三十点を本にしました。

太原久雄さん(西伊敷三丁目)



川は人と自然との接点、関係をもっと楽しめよう。



■岩崎橋の上から下流を眺めた風景。「甲突川絵日記(太原久雄著)」より

私がスケッチしたところに比べると、川に降りやすい護岸、親水護岸、岸というんですか、あれが増えました。自然との接点がないと人間生きていけないことに気がついたということでしょう。もともと川と生活とは関係が深かったのですから。

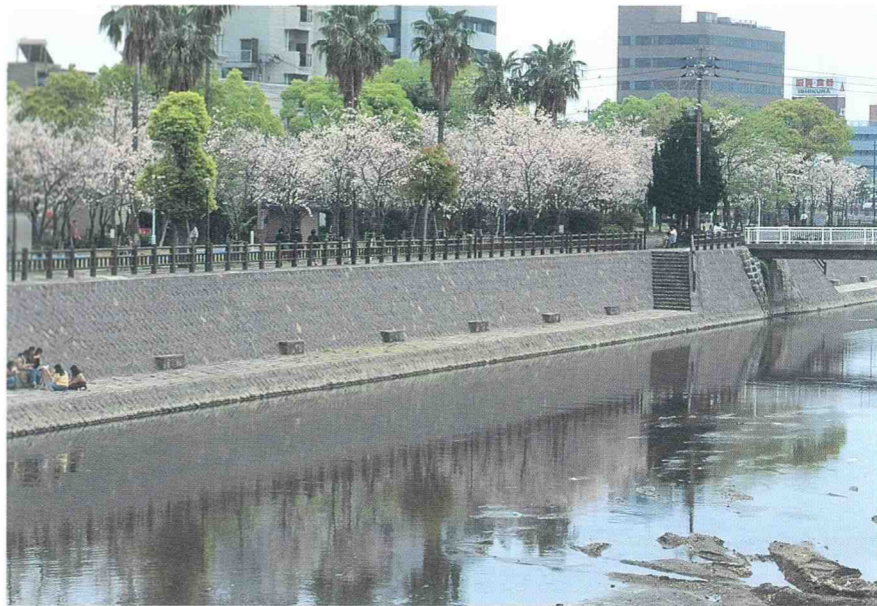
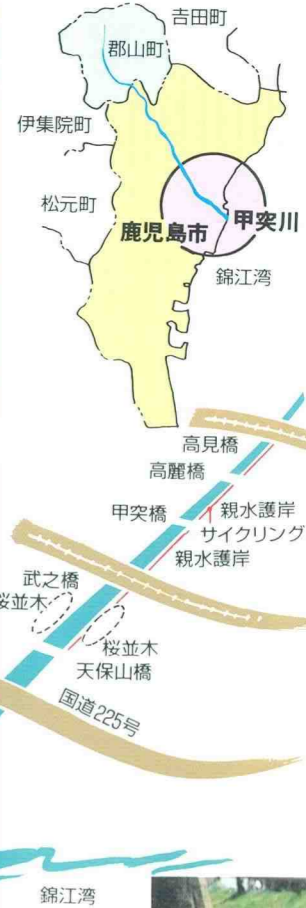
甲突川は、橋や河畔の建物、石碑などから時代の変遷がしのばれて興味深いです。歌碑とか句碑とかも増えれば、知的な関係がもっと楽しめるでしょうね。

エピソードとして海へ

甲突川の流れも、その速度を落とす都心部。市民の営みや都市の変革を川面に映しながら、よどむことなく流れ続ける。ある時は桜の花とともに流れ、ある時は水鳥に休息の場を与える。甲突川は四季を通して魚が泳ぎ、鳥が羽を休め、人が遊ぶ。

二万三千二百メートルにも及ぶ流れも、やがて河口。甲突川は波に押し返されながらも静かに海へと広がっていく。

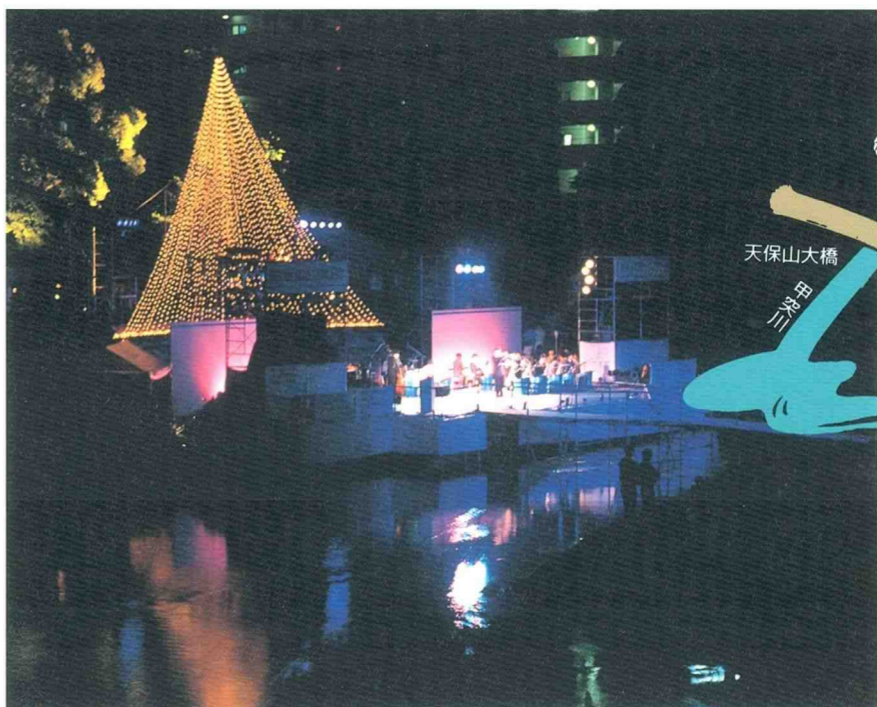
高見橋から河口



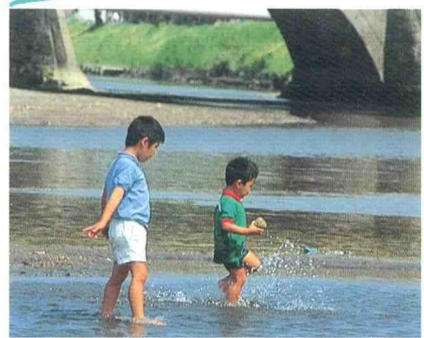
■春の流れ～甲突川は穏やかに都心の流れ進む～(甲突橋下流)



■川面に映し出される風景は時代の流れとともに移り変わる。(天保山橋上流)



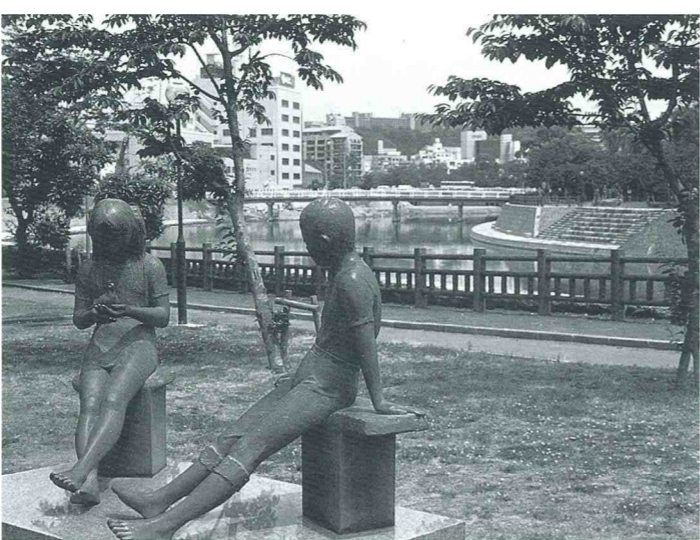
■清流と水辺のコンサート ■川風と音楽のハーモニーを約7,000人の市民が堪能。(甲突橋下流)



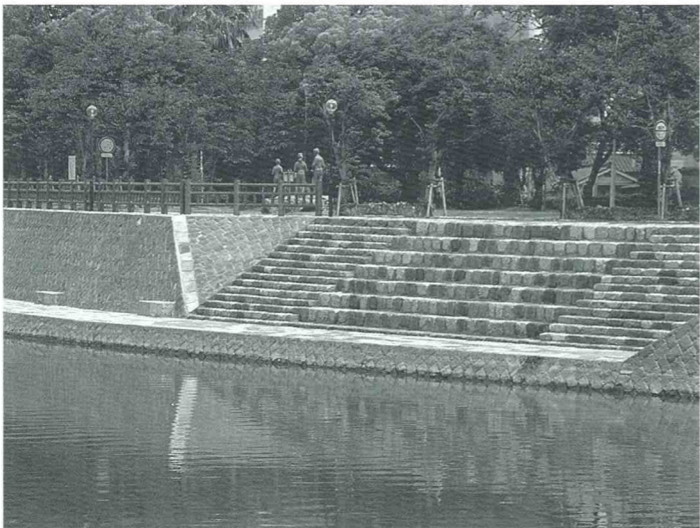
■バシャ、バシャ。川の水って、とっても気持ちいいよ。



■甲突川河畔は市民の身近な健康づくりの場所です。



■新緑の甲突川、二人の語らいが聞こえてきそう。(甲突川右岸 武之橋もと)



■川とのふれあいスペース、親水護岸。(武之橋上流)

朝の甲突川、
とても気持ちいいですよ！

するようになりました。雨や大風の日は除いて毎日、朝は七時位から武之橋から天保山橋まで二往復します。

ここは安全で、川風もとても気持ちがいいです。春は毎日がお花見ですし、冬でも散歩するとポカポカ体があたたまり、寒さもあまり気になりません。

お友達と話をしながら散歩や体操をしたりするのが楽しみです。



原田 キサエさん(南林寺町)

健康管理をきっかけに、昭和六十年から朝、夕、甲突川ペリを散歩



はばたき



■ユリカモメの舞い飛ぶ冬の河口～そして海へ～

甲突川歴史散策

鹿児島市の北部から中央部へと流れる甲突川。この川も数多くの歴史を水面に映してきました。ここでは川の名の由来、周辺の歴史について触れてみましょう。

甲突川の名の由来

甲突川の名の由来には諸説がありますが、ここでは二つの説をご紹介します。

一つの説は……

南北朝の争乱が繰り広げられていた正平九年(一三五四年)、南朝側の島津氏と北朝側の北畠氏は、川を挟んで対峙していました。

先兵同志の軽い手合わせが数日続き戦機が熟したところ、北畠陣営から多田七郎という武者が名乗り出て島津陣営の山田弥九郎との一騎討ちを申し出ました。山田もこれに応じ、二人は川の中洲で一戦交えることとなりました。戦いのなかで一瞬、山田の長刀が多田の頭上をとらえました。その瞬間、多田の甲は川の中へ。

甲が突き落とされた川、そこから「甲突川」と名付けられたというものです。



■甲突川

もう一つの説は……

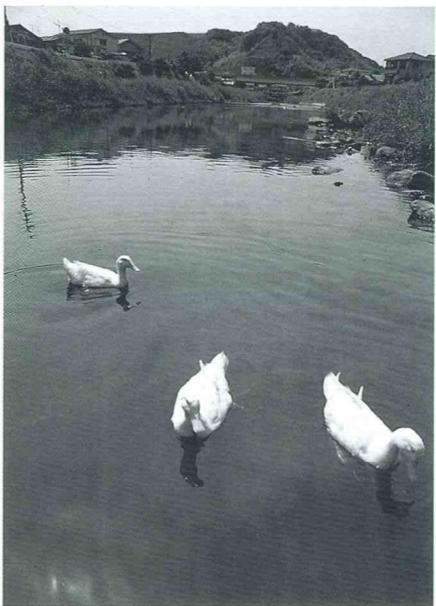
神無月に鹿児島神社(草牟田)で豊年を喜ぶにぎやかな祭礼が行われます。神社前の清流も祭り囃子にあわせ、リズムカルに流れていきます。この祭礼の月から「神月」の「川」、「神月川(こうつきがわ)」という名が付けられたというものです。

昔からみんなに親しまれてきた甲突川だからこそ、その名の由来もいろいろなものがあるようです。

梅ヶ淵

伊敷町新村橋のすぐ下流が梅ヶ淵と呼ばれる場所です。昔、この辺りは水深があり、水は青黒く濁り、気味の悪い場所でした。

ある日、殿様が伊敷のモミジ谷にお越しになりました。その時接待役を命じられたのが、お梅という美女でした。お梅が殿様に食事運び、膳を差し出そうとしたその時、竹の床がきしみ「ブーッ」という音をたてました。それを聞



■梅ヶ淵

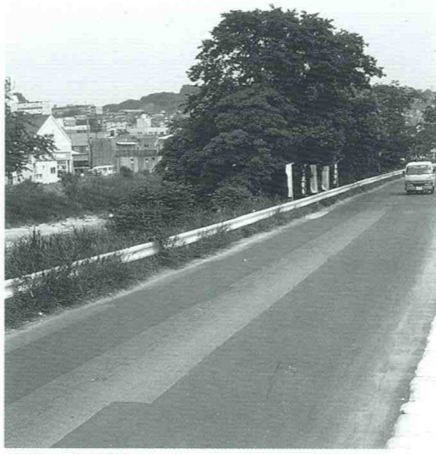
いた殿様は、お梅がオナラをしたと勘違いされ、ひどく立腹されました。弁解もままならず、お梅は悩みました。そして、お梅が身の潔白を訴える手だてとして選んだのが「死」でした。暗れ着のまま川に身を投げたお梅の遺体は、浮き上がっては来なかったということです。村人はお梅の死を悲しみ、お梅が身を投げた辺りを「梅ヶ淵」と名付けたということです。

櫛之木馬場

玉江橋から鹿児島実業高校付近までの甲突川沿いの土手の道が「櫛之木馬場」と呼ばれる場所です。

ハゼノキの実から蠟(ろう)ができます。蠟を売り藩の財政を潤すため、この辺りにハゼノキを植えたということです。

現在でも、センダンなどの樹木に混じり、数本のハゼノキが残っています。



■櫛之木馬場

小山田発電所

甲突川の上流、小山田町諏訪神社下に小山田発電所があります。

日清戦争による産業振興で、鹿児島に発電所が計画され、明治二十九年(一八九六年)には鹿児島電気株式会社設立され、五代友厚の甥で串木野金山を経営していた萩答院重義氏が社長に就任しました。発電は明治三十一年(一八九八年)八月一日に開始され、九州初の営業水力発電所となりました。創業当時は六十キロワットで、市の中心部の八百三十三灯に電気を供給していました。

その後、明治三十三年十一月には



■小山田発電所

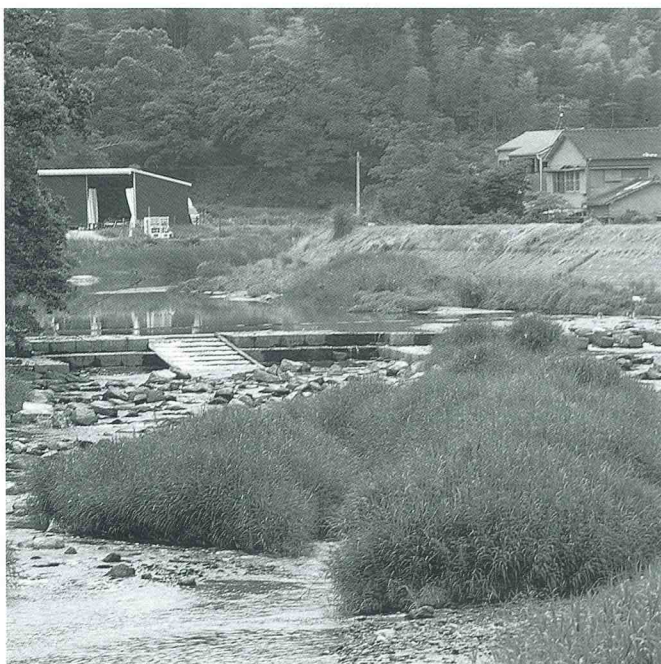
河頭に百キロワットの第二発電所が建設されました。

鹿児島電気は熊本電気、そして九州電気に合併され、その後、九州配電に統合、今日の九州電力に受け継がれました。

石井手用水

伊敷町飯山橋の上流約二百坪の場所に壊れかけた石畳があり、切石が散らばっています。ここが石井手用水の堰の跡です。堰の長さは四十四坪、高さは約二坪だったと言われます。

この堰から肥田、名突、田中宇都、小野、中福良、中迫を経て、



■石井手用水の堰の跡

永吉、原良、常盤、西田、武岡の麓を通り、武小学校的の正門を過ぎ荒田まで六・五坪も水路は延びていました。これが「石井手用水」です。当時、百二十坪の新田かんがいに利用されました。

石井手用水路にたくさん架けられていた小太鼓橋も現在ではほとんどが姿を消しています。また、用水路自体もほとんど埋め立てられ、道路や下水溝になっています。

この石井手用水の築造年は文化三年(一八〇六年)とする説と、文化十年(一八一三年)とする説があります。この用水のおかげで、用水路周辺の地域は干ばつ知らずの

土地となりました。

永吉水車館機械場跡

永吉団地入口の十字路、石井手用水路の脇に水車館跡の石碑があります。

水車館機械場は安政四年(一八五七年)に藩主島津斉彬により、藩の船舶五千三百余艘の帆布を自給する目的で設置されました。紡績の機械は長崎の商人青木休七郎が輸入したものを斉彬が購入し、動力は石井手用水の水力を利用しました。ここでの機械織りは磯に西洋式の洋式紡績所が建てられ、水車館機械場の職工たちが移るまで



■永吉水車館機械場跡

の約十年間続けられました。

斉彬は永吉のほか、田上にも水車館機械場を設置しました。

座禅石

草牟田の護国神社境内の手前の道を城山団地へ約二百坪登ったところに丸山墓地があります。この墓地の裏手に座禅石が残っています。

若き日の西郷隆盛、大久保利通、吉井友実らが南林寺の末寺である天童山誓光寺の無参和尚の教えを受け、この石の上で甲突川の水面を眺めながら座禅を組み修行に励んだと言われています。誓光寺のあった場所は今は人家が建ち、座禅石だけが現在の場所に移されたこととす。



■座禅石

クローズアップ アミップ

鹿兒島西警察署婦人補導員 瀬之ロシヅエさん



悩みや葛藤に苦しんでいる子どもたちの心に一石を投じられれば…。婦人補導員としての地道な活動が認められ、女性職員として全国で初めて、警察職員の最高賞「警察功労章」を受賞。きょうも母親のような温かさで、迷える子どもたちに声をかける。

婦人補導員の仕事を約三十年。今年三月、警察職員として最高の賞「警察功労章」を受けた。女性として全国で初めての受賞だった。瀬之口さん自身、一人娘を今春、社会へ送り出した母親。「章を励みに、将来ある子どもたちを立派な社会人にするために、一層がんばります」。

街頭補導だけではない。わが子の教育に自信を失った親たちの悩みを聴くのも大切な仕事だ。「根気がいらいますね。結果がすぐに出るわけではない。子どもを立ち直らせようとしても、親から「余計なこ

とを」と、反発されることもある。「それに、精一杯やっても全部が全部、よい結果がでるとは限らない。荒れるほうにいくと悲しい」とも。厳しい仕事だが、その苦勞を忘れることもある。かつて補導した子どもから「元気でやっている」という便りをもらった時だ。

こんなこともあった。天文館で信号待ちをしていると、会社員風の男性に声をかけられた。「補導員の方ですよ」。高校をやめようかと迷って街をうろついていた時に声をかけて励ました人だった。「おかげで、やめずにすみました。立

派に働いています」と、礼を述べた。

補導員になる前、小学校の教師を三年務めた。ある日、一人の児童が学校に来なくなった。その子をじっくり指導したかったが、他の児童もいるので無理。そんな時、県警が「婦人補導員」を募集しているのを知った。「問題を未然に防げるなら」と転職。鹿兒島署(現中央署)を振り出しに、鹿兒島南署、県警防犯少年課、鹿兒島西署へ。市内をくまなく回り、非行問題を見つめてきた。

最近、非行も多様化した。終バスで天文館に当てもなくやってくる子、遊び感覚で家出してくる子。昔は「昼間に、市内の子が」というケースが大半だったが、今は「夜間それも深夜に、県外の子も」。補導員になったころ、家出少年は汚い服で、大きな荷物を抱えていた。今は、コインランドリーで洗ったき



れいな姿で、大きな荷物はコインロッカーへ。

家出や非行の原因は、家庭がやすらぎの場ではなくなり、子どもがそれを外に求めるようになったためだという。「家庭の機能が不十分。物・お金は十分だが、愛情が不足しているケースが多い」。逆に親の過保護、過干渉が原因になることも。非行に走る年代は中学生が一番多い。思春期の子どもの心は揺れる。そんな時、親の方も不安になると危ない。

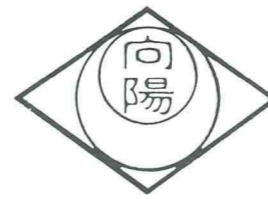
「それを防ぐには、幼児期から生活の習慣を規則正しくしつけてほしい。何と言っても、家庭の愛情が一番の対処法です」と、笑顔で締めくくった。

文／新井義顕・朝日新聞社記者
【プロフィール】

鹿兒島市出身。小学校教師を経て昭和三十九年婦人補導員に。鹿兒島警察署(現中央警察署)を初めに、県警本部、鹿兒島南、中央、西の市内各警察署で問題を抱える子どもたちに接してきた。現在、鹿兒島西警察署防犯課に勤務。
今年三月十二日に東京で行われた警察功労章の授賞式では、全国から集まった警察職員約七十人中で紅一点の受賞者となった。
大黒町在住。五十四歳。

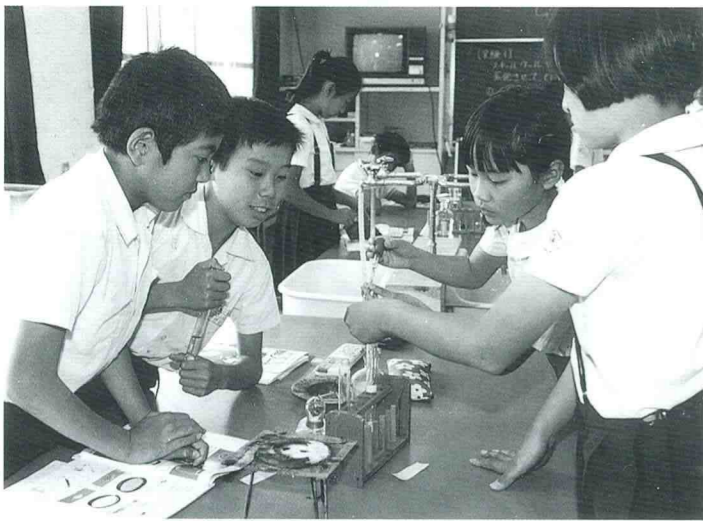


学校探訪



向陽小学校

●創立…昭和58年4月 ●児童数…389人(平成5年5月1日現在)



■試験管を見つめる目は未来の科学者?



■生活農園で野菜の栽培～早く大きくなってネ～



■ここは向陽小あいさつ通り。元気な「こんにちは」が響きます。



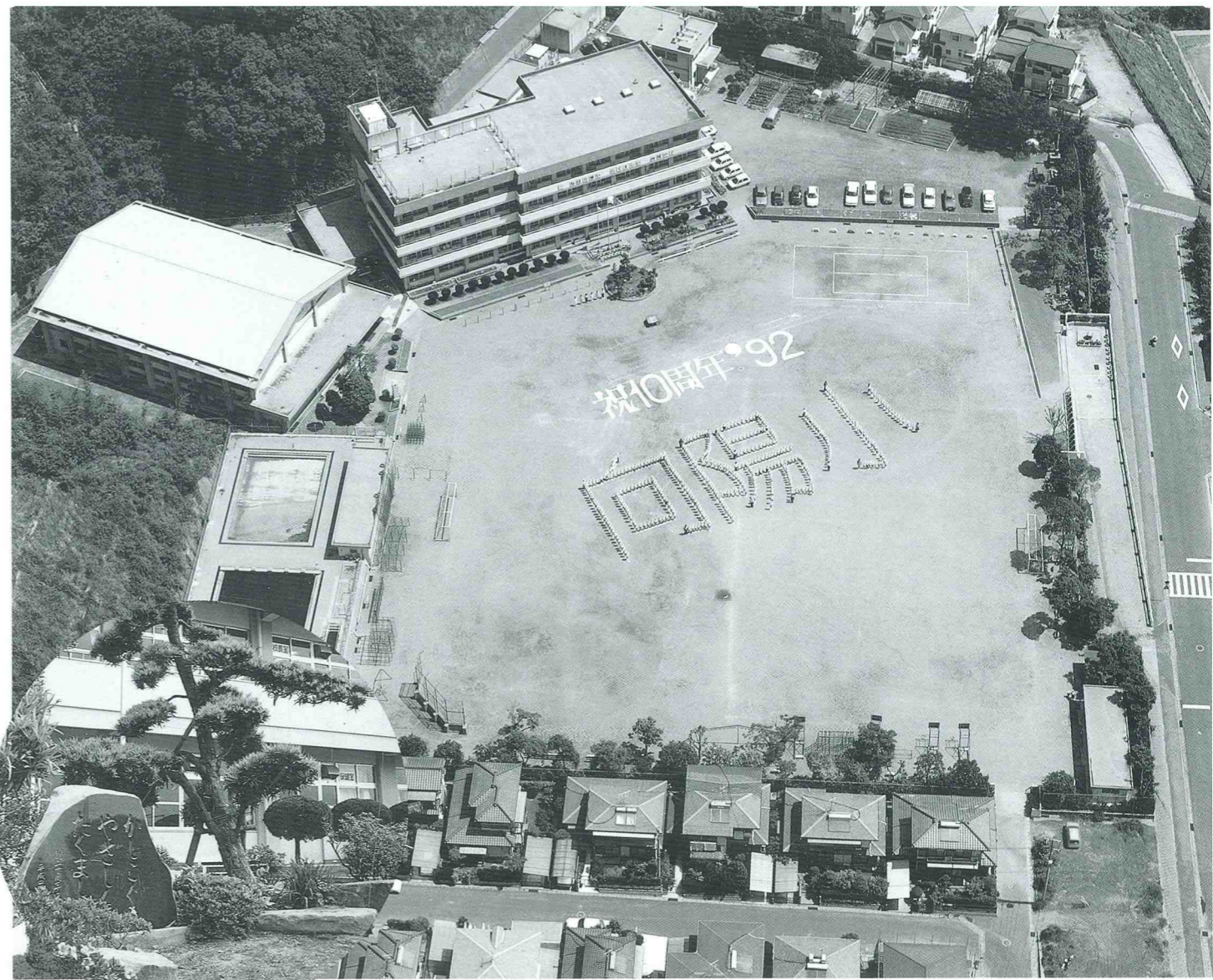
■マーチングバンドの練習風景～楽器はなくても、みんな真剣～



■1年生もすっかり学校に慣れました。～元気いっぱい、ハイポーズ～



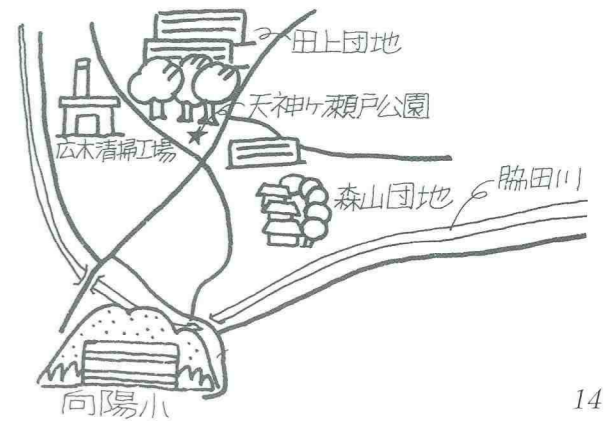
■カメラなんか気にしてられないヨ! えいさっと。



■昨年、創立10周年を迎えた向陽小。21世紀を担う子どもたちによる人文字。

太陽に向かって
伸びる向陽小

六年 新原綾子さん



わたしたちの向陽小学校は、桜ヶ丘と紫原の台地に挟まれた緑豊かな高台にあり、今、全校児童三百八十九名の学校です。

「向陽」とは、字のごとく、太陽に向かって発展する学校ということの名付けられました。わたしたちの学校は、先生方をはじめ、顔を合わせると元気な気持ち良いあいさつが飛び交い、みんなの楽しい笑い声が絶えない、伸び伸びとした学校です。

わたしたちは、昨年、青少年赤

十字に加盟し、ボランティア活動を中心に公園、通学路の清掃などを行っています。また、児童会を中心に一円募金を募り、たくさん募金を海外の恵まれない子供たちへ義援金として役立てました。

その他に、わたしたちの学校では交流学習にも取り組んでいます。武岡台養護学校、牧園町立持松小学校、富山市立堀川小学校のみんなと一緒にレクリエーションや勉強をしたり、絵やビデオの交換などをして交流を深めています。友だちも増えて、とても楽しいです。

また、花いっぱい学校として「二人一鉢運動」などの緑化運動に積極的に取り組んでいます。昨年度の「南日本花だんコンクール」では入選を受賞しました。夏休みや春休みのときも五・六年生が交代で水かけなどをして大切に育てています。あわせて、全校でグリーンマークを集めて、花や木の苗と交換して、学校に緑を増やす運動を行っています。

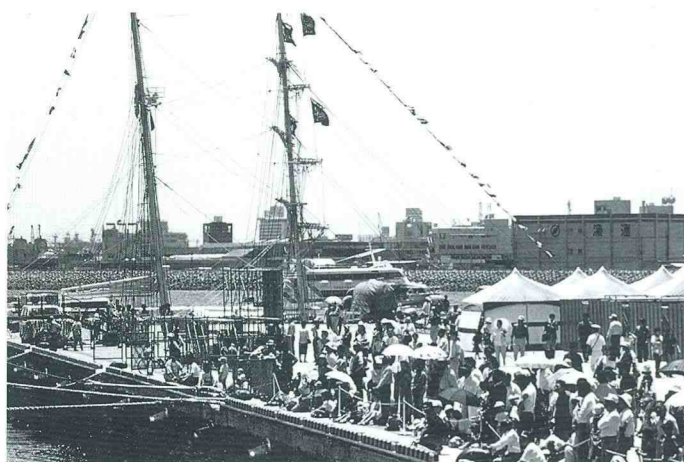
創立十一年目を迎えましたが、これからも「かしこく、やさしく、たくましく」の校訓のとおり、みんなで力を合わせて、さらに光輝く、明るい向陽小にしていきたいと思っています。



5月1日/第3回 椋鳩十児童文学賞授賞式
市制施行100周年を記念して創設された椋鳩十児童文学賞。今年は32編の応募の中から、もとやま ゆうほさんの「パパにいたい日もあるさ」が受賞作品に選ばれ盛大に授賞式が行われました。もとやまさんの次回作も楽しみです。

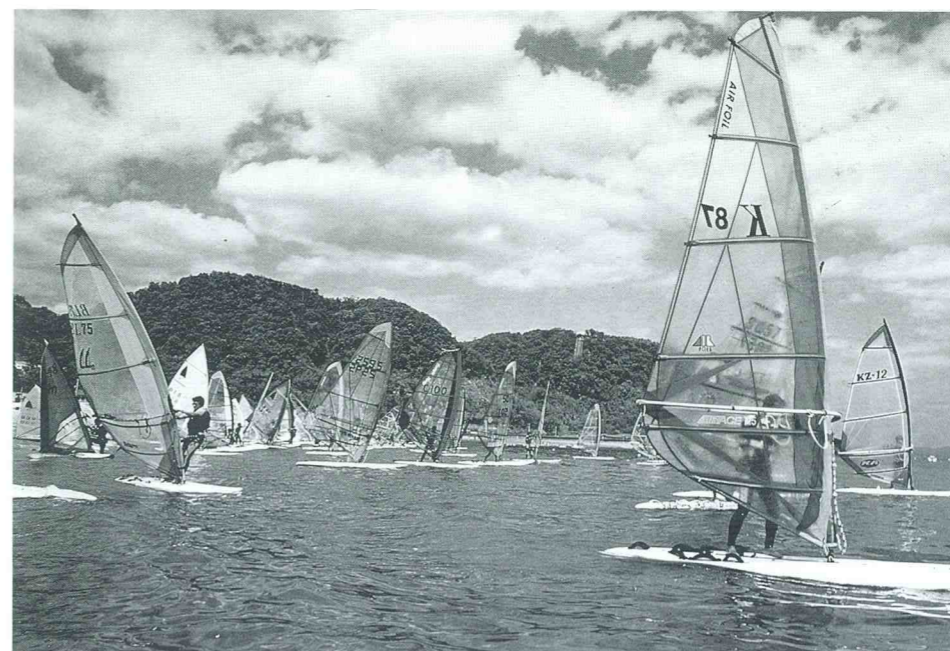


4月27日/ミス鹿児島島の夏服披露
今年のテーマは「錦江湾をいだし、飛躍するウォーターフロントシティー鹿児島と知的で活動的な都市型女性」。この夏服と、すてきな笑顔で観光鹿児島島を大いにPRしてくれることでしょう。



5月22日～23日/ウォーターフロントフェスティバル
6回目となった今回のテーマは「海流伝説」。ヨット・水上バイクの試乗体験、帆船「海星」、巡視船「おすすみ」の一般公開、屋台街など盛りだくさんの内容があり、集まった人々は海辺の楽しみを満喫していました。

4月29日/雨の中でも大盛況! 市畜産フェスタ
与次郎ヶ浜で開催された市畜産フェスタは、あいにくの雨空にもかかわらず、大勢の人でにぎわいました。動物たちとふれあう子どもたちの笑顔がとても印象的でした。



3月20日～21日/'93かごしまカップウインドサーフィン大会
春の日差しの中、「'93かごしまカップウインドサーフィン大会」が磯海水浴場を舞台に開催されました。参加した選手は色とりどりのセールに春風を受け、自慢の腕を競っていました。



4月5日/甲突川に稚アユを放流
今年も甲突川に稚アユ11万匹が放流されました。春の光を浴びながら元気に甲突川に泳ぎ出していったアユの子どもたち。川の恵みを受けて大きく成長することでしょう。



3月26日/桜島の高免小学校で休校式
児童の数が減少したため、79年の歴史をもつ高免小学校が休校することになりました。再び開校できる日が来ることを願いながら休校式が行われました。



4月7日/田上福祉館開館
36番目の地域福祉館として田上一丁目に田上福祉館がオープンしました。地域の皆さんのコミュニケーションの場として、大にご利用ください。



HELLO—KAGOSHIMA

ジェリコ・
トウトウニエヴィチさん

(クロアチア)

海あり、山あり、地球の胎動を感じさせる火山まであって、そのうえ、住んでいる人たちは皆、気さくで親切。私は本当に鹿児島を気に入っています。昨年十月、旧ユーゴスラビアのクロアチアから戦火を逃れて、奥さんの故郷鹿児島市に移住したジェリコ・トウトウニエヴィチさんは鹿児島の印象をこう語ってくれた。

クロアチアで報道写真記者だったジェリコさんは現在、鹿児島市内の出版社でカメラマンとして九州・四国取材で飛び回っている。忙しい毎日だが、たまに休みが取れると、なるべく家族そろってドライブを楽しむなど、家族への思いやりも忘れない。

今年三月、宇宿町の町内会が中心となって地域ぐるみの廃品回収を行い、その益金はクロアチアへ医療費用に充てる資金として送られた。「日本からすれば遠い国なのに、みなさんがこんなにも善意を寄せてくれることに心から感謝

している」とジェリコさん。

八月四日からは県文化センターで募金運動を兼ねた写真展が開かれる予定。「クロアチアには今も弾におびえ、眠ることもできず、食べる物もなく、その日を生きている大勢の子供たちがいる。そのことを平和な日本の子供たちにわかってほしい」。現実に戦火の中を生きるびたジェリコさんの言葉は重い。

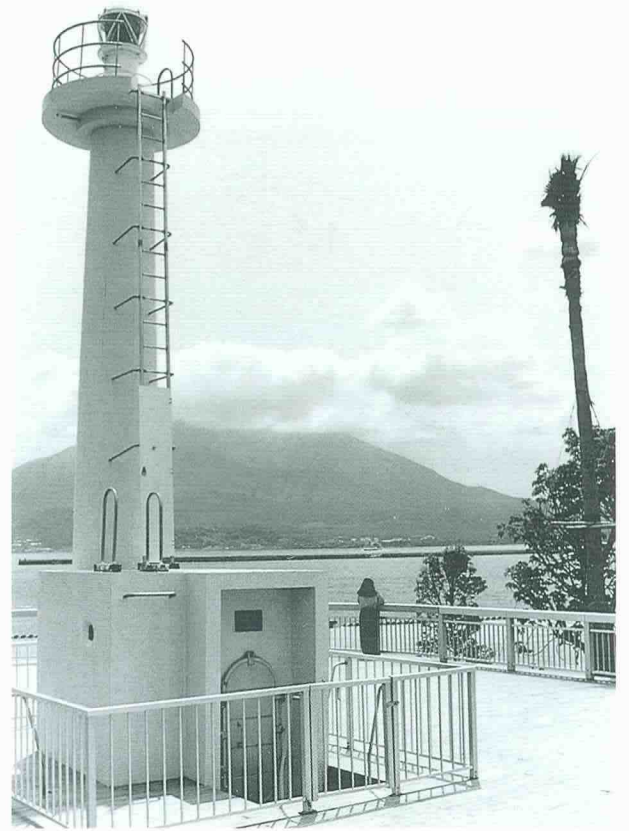
最後に、鹿児島で一番撮りたいものは？「噴煙の中に青白い稲妻が走るような桜島の爆発」。ウイंकして答えてくれたその笑顔に、被写体にこだわるカメラマン魂をみた。



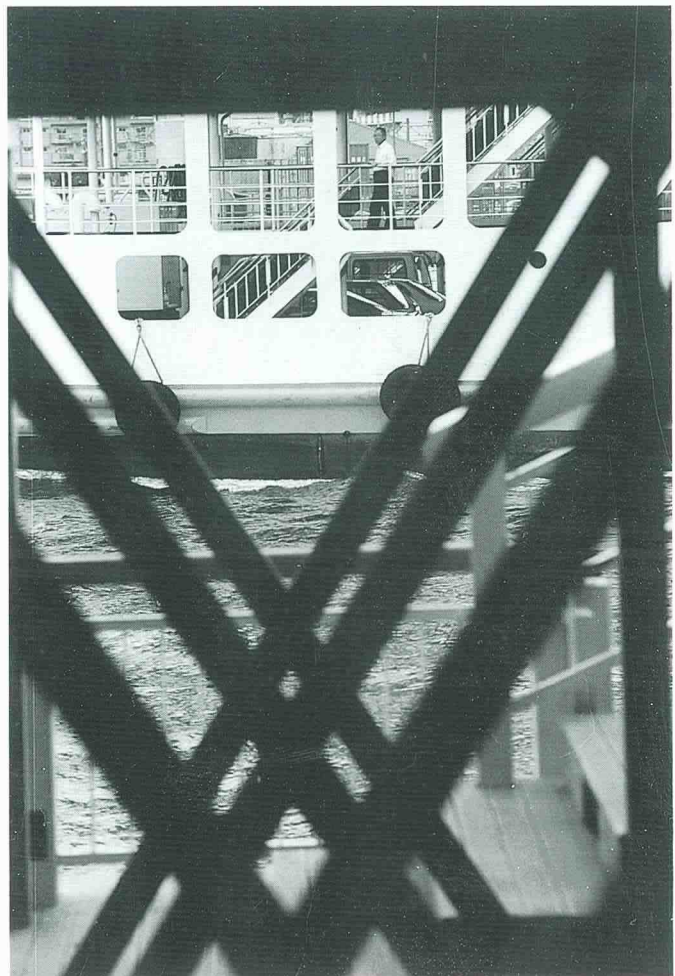
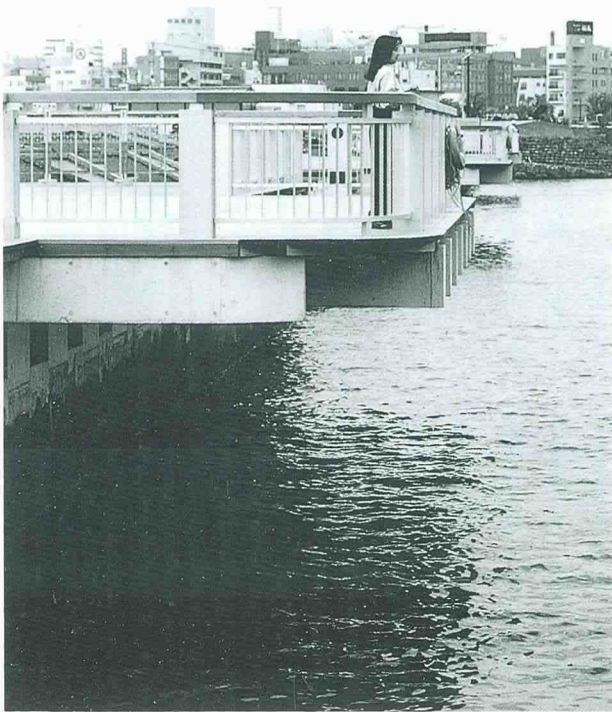
奥さん(泉さん)とニコリほほ笑むジェリコさん

シティーアングル CITY ANGLE

ボードウォーク



鹿児島港本港区北ふ頭に姿を現したボードウォーク。
ここには海との新しい出会いがある。
(今年度内の完成を前に、一部開放中)



「いま」を生きる！

前鹿兒島市地域婦人会連絡協議会会長
児玉フミさん



目を閉じると遠く潮騒が聞こえてきます。

原体験と言ってもいいんでしょうか。黄昏の砂浜に座り、黙々と魚網の手入れをしていた漁師の姿に、今でも郷愁にも似た温もりを感じてますよ。

それは、夕方の家々につく明かりのように、いつでも私を温かく包んでくれます。

私にとって、「海」という存在は人生そのもの。

結婚を機に、生まれ育った和田町から、より海に近い、ここ小松原に移ってきたのも何か不思議な縁のような気がします。

松林に囲まれた小松原公園には昔の面影がずいぶんと残っていて、今でも私の大好きな場所の一つです。

心地よい松籟に吹かれていると、夏の日差しを浴びて海岸で元気に遊ぶ子どもたちの歓声とともに、

白砂青松の海岸だった昔が鮮やかによみがえってきます。本当に懐かしいですね！

永田川は谷山の母なる川。

ひところは川の汚染が進み、どうなることかと心を傷めていましたが、ここ数年のクリーン作戦などが功を奏し、随分ときれいになりました。

そうそう、川の思い出と言えば、幼いころ、和田川から海岸までよく遊びにいきました。

時間を忘れるほど貝掘りやのり採りをして、ふと顔をあげると太陽が西の稜線に沈んでいく。幼いころの思い出は美化されると言いますが、本当にきれいな夕日でした。

七ツ島にも近かったので、小学校の遠足でよく出かけました。

今でこそ、谷山臨海工業地帯の埋め立てで、一番大きな父島しか残っていませんが、当時は潮干狩



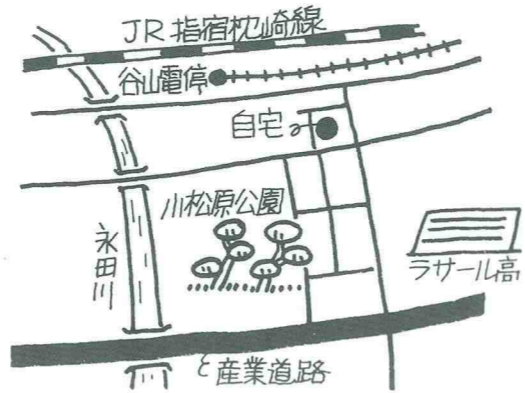
永田川沿いの道をゆっくり歩く。川面を渡るさわやかな風が児玉さんをやさしく包む。



「郷愁を誘う潮騒と海の香り。心がやすらぎますね……」



身ぶり手ぶりを交え、当時のことを話してくださった児玉さん。かくしゃくとしたその姿に「薩摩の母」を感じた。



取材メモ

取材前日は、珍しく谷山方面にかなりの降灰があった。道路からまき上がる灰にも、いやな顔ひとつせず、取材に応じてくださった児玉さん。

「何事にも一生懸命に取り組む」。明治から平成を生き抜いてきた、薩摩おごじよの真摯な姿に心をうたれた。

外出するときには、もっぱら市電で。最近の新型電車は乗り心地が良すぎて？昔の横揺れが懐かしいとも……。

一日の健康法は、就寝前にゆっくりとお風呂に入り、軽い運動で体をほぐすこと。

平成二年、南日本社会教育賞受賞。小松原二丁目在住。八十三歳。



古くから景勝の地として親しまれた七ツ島。ここに立つと、幼少のころの楽しい思い出が鮮やかによみがえる。



当時の教え子たちとは今でも電話で連絡を取り合ったり、遊びに行ったりと行き来があるんですよ。やはり、人間は一人では生きていけないもの。人と人との心の交流を大切に「いま、この時」を大事

生きていきたいですね。また、女性としては初めてでしたが、「谷山ライオンズクラブ」に昨年入会したのも何かの縁だと思いいながら楽しんで活動をさせてもらっています。

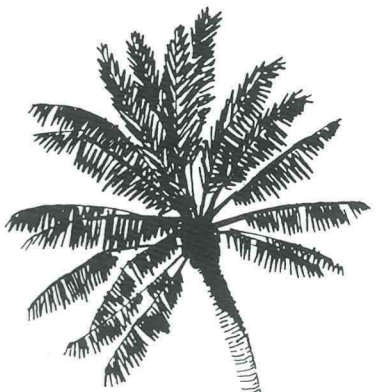
ライオンズクラブの特に自己を高めることに厳しく、奉仕活動を進めていく姿勢に大きな魅力を感じています。私にとっては一服の清涼剤です。人生は「邂逅」。これからは素晴らしい出会いを求めて、充実した人生を送っていききたいですね。幼いころに見た、あの夕日のやさしさをずっと忘れずに……。



市内で二番目に長い永田川。最近魚影も増え、ずいぶんきれいになってきたという。



「ここには孫たちと犬を連れ、よく散歩に来るんですよ。～お気に入りの小松原公園にて～」



市民の

ひろば

「市民のひろば」はMBCから放送されます。放送日時は、毎月第3日曜日を除く日曜日の午前10時30分から15分間。ただし、第4日曜日は30分間。(この番組は平成5年5月23日に放送したものです)

ふれあい生き生き

地域公民館

生涯学習の時代ともいわれ、市民の趣味やスポーツなどへの取り組みが活発になっていきます。生涯学習の二つの拠点になる地域公民館でも、多くの市民が毎日、生き生きと活動を楽しんでいます。番組では市長と地域公民館にかかわるゲストが生涯学習の大事さや地域公民館の役割、趣味・スポーツ活動の魅力などについて語り合います。

生きがいのある人生
ふれあいのある人生
上野 人生八十年の時代。健康で趣味やスポーツなど、生きがいを持つことが大切です。生きがいは味わいのある人生を送りたい、そんな思いを支えるのが「生涯学習」ですが、市長さん、これは大変大

自分らしい生き方を見つけだし、生きがいのある人生を送ること。もう一つは、自分だけの幸せでなく、地域全体も一緒になって幸せを高めていくことだと思います。
上野 生きがいのある人生、ふれあいのある人生ということですね。市長 まちづくりは人づくりです。そういう意味では、生涯学習は非常に大きな意味を持ちます。
「第三次鹿児島市総合計画」のなかでも「豊かな心と個性が育まれるまち」を基本目標の一つの柱にしています。学校教育にしても、社会教育にしても、生涯学習の輪を広げていく場、施設をできるだけ充実し、市民の方々にそれをうんと活用していただいで、生涯学習を盛んにしていただこうと考えています。

五万八千人、一館当たり一日平均約三百人にもなります。
市民一人、一芸、一学習、一スポーツ
上野 大迫さんは、その公民館で

どんなことを教えていらっしゃるのですか。
大迫 鴨池公民館ではバドミントンと高齢者の健康体操、武・田上公民館でバドミントンと心と体の



MBCスタジオで収録(写真右から下長野さん、大迫さん、川井田さん、赤崎市長、上野アナウンサー)

健康教室、これにニュースポーツを取り入れていきます。それから、勤労婦人センターでバドミントンを指導させてもらっています。主婦を中心に二十歳代から高齢者では七十歳代まで幅広いです。
上野 下長野さんたちの自主学習グループは、どういうものですか。
下長野 自主学習グループは公民館の講座などを卒業した人たちが今度は好きな者同士で集まって、さらに楽しみながら活動しようとする自主的につくったグループです。好きな者同士なので、気兼ねなく楽しく過ごしています。
上野 市長さん、自主的にこれまで学んだものを継続して、そして出会いを大切に、また続けていくというのには素晴らしいですね。
市長 そうですね。やはり、自分たちで学習する自主学習グループというのは本当の生涯学習なんですよ。
鹿児島市では「市民一人、一芸、一学習、一スポーツ」と、これを目標に、いま生涯学習の輪を広げるように一生懸命頑張っています。
上野 公民館の図書室も人気があるそうですね。
川井田 一年間に十五万九千人が利用され、貸出冊数が三十九万九千冊と言いますから、一館当たり

- 【出演者】敬称略
- 下長野 一良 (地域公民館自主学習グループ代表)
 - 大迫 洋子 (地域公民館講座講師)
 - 川井田 稔 (鴨池公民館館長)
 - 赤崎 義則 (鹿児島市長)
 - 上野 知子 (司会)

地域公民館は生涯学習の最前線

上野 その生涯学習の場の一つが地域公民館になるわけですね。
川井田 地域公民館は生涯学習の最前線の場であり、その役割を果たしていると思います。
生涯学習とは自己の充実または啓発のために、または自分の生活の向上のために、必要に応じて自分から進んで自分に適した手段や方法を選んで勉強していくこと、だと言われます。「いつでも、だれでも、どこでも生涯学習ができる場や情報を提供するのが地域公民館の役割だと思っています。地域公民館は八館ありますが、主催講座は二百五十。そのほかに自分たちで学ぶグループが四百六十七あり、平成四年度の利用者は全体で八十

一日平均二百冊くらい貸し出ししていることになりましたね。
市長 市立図書館は一年間に七十二万人が利用し、百万冊貸し出しています。市民の方々の本を読みたいという意欲が高いのはうれしいことですね。市立図書館と公民館図書室、移動図書館はコンピュータでネットワーク化してありますから、どこでも借りて、どこでも返せますので非常に便利です。

楽しいことは身につく生涯学習

上野 皆さんの学習意欲がますます盛んになってきていますが、大迫さんはどんなことを心掛けていらっしゃるのでしょうか。
大迫 やはり、ムードが大切だと思います。楽しくないと続けられません。苦痛で公民館に行くのでは「生き生き」にはずれませんので、ムードづくりに心掛けています。
上野 その楽しい大迫さんの教室を生徒さんにレポートしていただきました。
レポーターは四ツ永智子さん
■私たちは、武・田上公民館のバドミントンの自主グループです。「共にステップ、共に笑い」がモットーです。子供は公民館の幼児室でメンバーが交替で面倒を見るので安心です。決して



23 図書室(中央と鴨池を除く6館にあります)



健康づくり学習室



鴨池公民館



講座や自主グループの活動で公民館はいつも活気があります。





お腹の中から声を出すのが一番!と、鬼丸さん



笑いと汗で気分そう快!と、四ツ永さん



技術はうまくはありませんが、笑いと汗でスポーツを楽しみ、生活をエンジョイしています。

上野 今度は下長野さんの自主グループです。

レポーターは鬼丸忠明さん

■私たちの民謡グループは、月二回、中央公民館で活動しています。メンバーは四十人。毎回二十〜三十人のメンバーが参加しています。鹿児島県の民謡を中心にレパートリーは四十曲。民謡は口を大きく開けて、お腹の中から声を出すのが一番です。

上野 皆さん楽しそうですね。

下長野 そうです。ここで歌うことがストレス解消にもなり、健康

の秘訣だと、みんな言っています。市長 私は生涯学習の「学」は「楽」としてもいいんじゃないかと思

いますね。好きこそもの上手と言いますが、好きなことは楽しいし、楽しいことは身につくということ

で。生涯学習は、やはり楽しいことが一番大事ですね。

行政のバックアップと

市民の意欲で広がる生涯学習

上野 川井田さん、生涯学習というのは行政のバックアップと市民の皆さんの学びたいという意欲がマッチしたときに初めて、うまくいくのではないのでしょうか。

川井田 その通りです。行政が中心になって、ニーズに応えるべく講座を用意するのが主催講座ですが、私はこれを観光バス型社会教育と呼んでいるんです。お集まり

ください、どうぞと。その他に自主学習グループなどのマイカスター

ンド型社会教育があるわけです。これがまさに生涯学習そのものだと。この二つが車の両輪になって

走らないといけないのではないかなと思っています。

上野 大迫さんは、その活動の場

の中心が公民館ということですが、公民館で活動できるのはうれしいことですね。

大迫 そうですね。やはり、行政

の協力があった私たちも楽しい汗を流せるわけですので、みんな、ありがたいという感謝の気持ちがあるようです。

下長野 本場に公民館で思う存分

歌わせていただくなんて、ありがたいことですよ。この生涯学習をもっと広げて、皆さんと一緒に楽しみたいと思います。

生涯学習フェスティバル

楽しみな発表の場

上野 皆さんの生涯学習に対する意欲と、一方で期待も大きくなってきているようですね。

市長 そうですね。平成四年度を

生涯学習元年と位置づけ、生涯学習課も設けました。また、鹿児島市の生涯学習の指針となる生涯学習推進大綱も近くできます。

できるだけ生涯学習の活動の場をつくるのが大事ですし、また、

地域公民館や地域福祉館、それから健康の森公園、鹿児島アリーナ、図書館、そういうものをうんと利

用していただきたいと思います。今年二月に生涯学習フェスティバルを行いました。二日間五千

人に参加していただき、初回としては大成功だったと喜んで

います。下長野 発表の場があると、やはり張り合いがありますね。春と秋に公民館で文化祭がありまして、

みんな楽しみにしています。

上野 そうですか。皆さんが自分で勉強してきたことを発表することとは大事なことです。

川井田 その通りですね。昔は鎮

守の森というのがあり、近所の人みんな集まってふれあい、お互いを助け合っていました。それがなくなり、その代わりにできたのが

公民館じゃないかなと思います。

「昔、鎮守の森。今、公民館。これを合言葉に、また、公民館の「敷居は低く、格調は高く」をモットーにやろうと考えています。

上野 大迫さんと下長野さんは、

これからのような活動をしていきたいと思っていますか。

大迫 自分自身が本場に楽しいです。時間と場所がありましたら、楽しいことはどんどん広げたいと思います。

下長野 まずは元気を出して、

皆さんと一緒に歌いまくろかなと思っと思っています。女性の方が多いので、なるだけ男性の方も来てほしいですね。

生涯学習で新しい能力、新しい人生の目標を発見

上野 市長さん、これから生涯学習を進めていくために行政としてどんなことをお考えですか。

市長 生涯学習に対する皆さんの

関心やニーズに十分応えていけるようにしなければいけない。情報をたくさん皆さんに提供することも大事だろうと思います。皆さん

には楽しみだけでなく、生涯学習を通じて自分の新しい能力や新しい人生の目標というものを見つけて出していきたいですね。

上野 ゲーテの言葉に「生きてい

間は、生き生きとしたいなさい」という言葉がありますが、どうぞ、皆さんも生涯学習で満ち足りた生活を送っていただきたいと思っ

ます。今日は皆さん、ありがとうございました。

ふるさととの史跡

見寄板碑群

鹿児島市文化財審議委員 木原 三郎



板碑群(手前は献灯)



懐良親王が滞在した御所原(見寄原)を望む



伝谷山郡司谷山隆信の墓

(注) 卒塔婆：供養追善のため墓に立てる、上部を塔形にした細長い板。梵字・経文・戒名などを記す。



上福元町見寄、川上勝氏宅裏山に四基の板碑があり、丁重に供養されている。板碑は石造りの卒塔婆(注)で、鎌倉・室町時代に死者追善、生前の逆修供養のため建立され、仏の種子(密教において仏、菩薩を標示する梵字)または仏像が彫られている。

四基のうち最も大きなものは高さ百五十八センチ、その次のものが高さ八十センチ、他の二基は鹿児島特有

の軽石製の角柱塔婆である。四基ともに、それぞれに種子が彫られている。

最大のもは三面に大きな種子が彫られ、正面の種子はウーン(金剛菩薩)、左面バン(金剛界、大日如来)、右面ア(胎藏界、大日如来)である。軽石製のものは高さ六十センチと四十二センチで、いずれも、ウーン、バン、アの種子があるが、軽石のため、やや風化している。

近くの自動車学校入口に、谷山郡司谷山隆信の墓と伝えられる高さ百七十センチの石祠があり、中の高さ百センチの板碑にはキリク(阿弥陀如来)の種子がある。

南北朝時代、懐良親王は、この地に六年滞在され、北朝方島津貞久と対戦した。見寄板碑群は、この時の戦死者の供養として、中世南北朝時代に建立されたものと推定される。



集えば楽し

青春は四十から！ 始終燃えてる「四十雀」

「鹿兒島四十雀フットボールクラブ」の皆さん

今年五月に開幕したサッカーJリーグ。その人気が物語るように、最近の全国的なサッカーブームは大変なもの。

そのJリーグ人気の華やかさには到底及ばないけれど、「どっこい！いぶし銀の魅力と抜群のチームワークでは負けていないぞ」というサッカーチームがここ鹿兒島市にあります。

四十歳以上のサッカー大好き人

間で構成する「四十雀」(丸山嘉久会長)がそれです。さっそく、試合がある明和中学校に出かけてみました。

おそろいの黄色いユニフォームに身を固めたメンバーが、舞い上がる砂ぼこりを気にもとめず、グラウンド狭しと相手ゴールめがけ、活発に動き回っています。

とても平均年齢五十三歳のチームとは思えない俊敏な身のこなし

と柔らかい球さばきにびっくり。さらに驚いたことには、八十五歳の現役プレイヤーも懸命にボールを追っているではありませんか。

昭和五十九年六月、二十八人のメンバーで結成された「四十雀」。現在、女性五人を含む七十三人からなる大世帯のサッカークラブです。

「女性メンバーがこれほど多いチームも珍しいのでは」。女性の加入で男性の張り切りようも違うよ

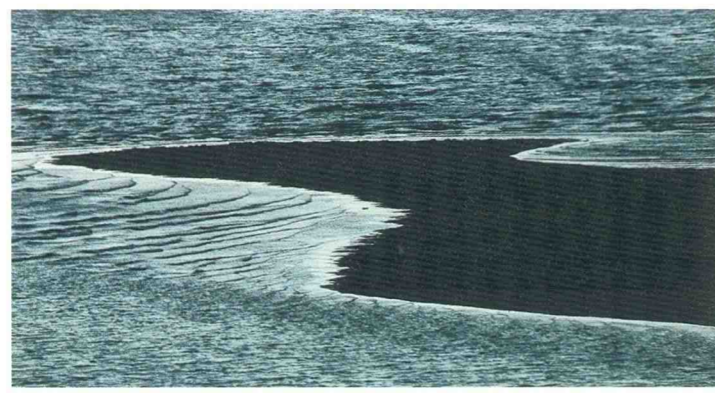
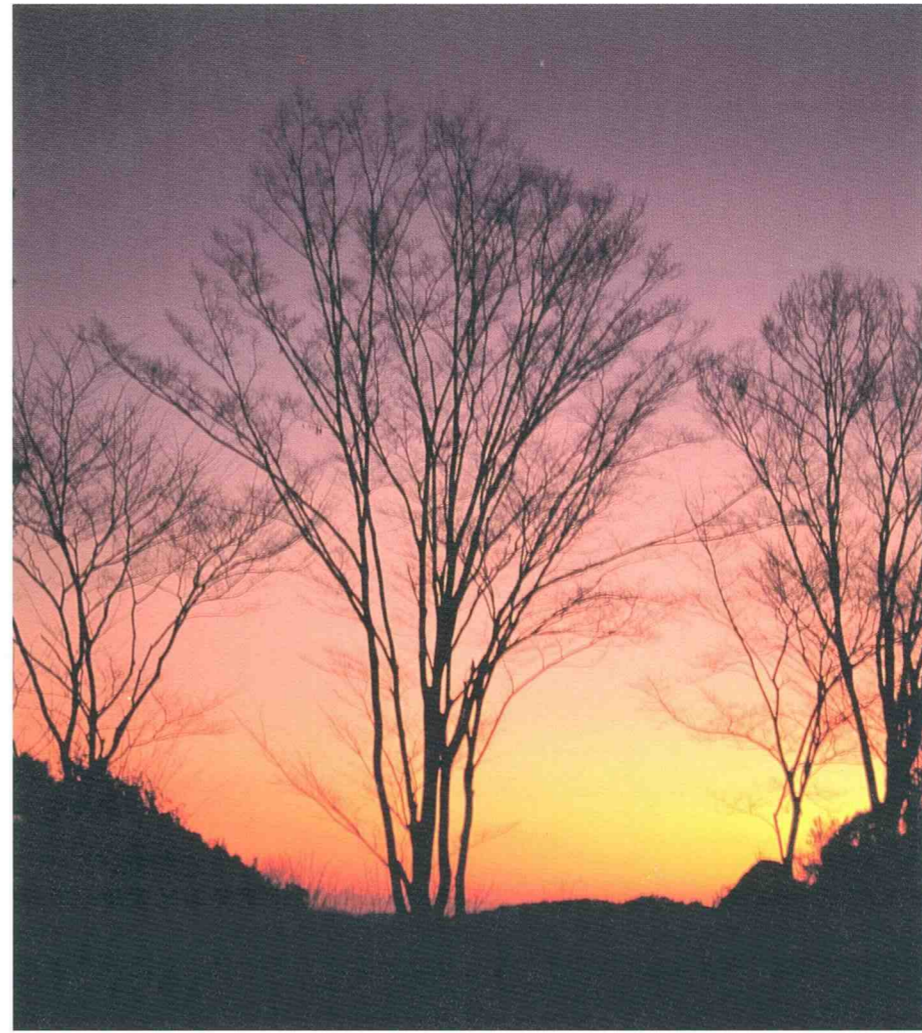
うですね」と、にこやかに話してくれたのは監督の川畑嘉也さん(六十一歳)。監督のもっかの悩みは、いかにして、まんべんなく全員を試合に出場させるかだという。

華麗なドリブルとパスワークでひたすらゴールを目指す「四十雀」。その瞳は、夏の日の少年のようにさらさらと輝いていました。

ひかり
あや
光の彩に話しかけて

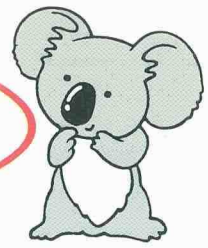
緑につつまれ、青い空、青い海に囲まれた私たちの郷土。
その中にいて、ほんのちよつと足を止めてふりむいた時、きつと、こんな世界を見せてくれるはず。
すーっと光が差しキラッと光る瞬間、いつまでも心に残しておきたいワンシーン。
見逃さずに撮っていききたい。

写真と文／小田純子さん





動物公園のゆかいな仲間たち



動物たちとのふれあいが楽しい動物公園。研究や種の保存といった役割も重要です。

今年三月、国内で初めて繁殖に成功したエラブオオコウモリは、口永良部島、宝島、中之島などにか生息しない国の天然記念物。成育の記録が今後の貴重な研究資料になります。

四月には国の天然記念物シマフクロウの「シマオ」が釧路市動物園に婿入りしました。全国の動物園で飼育されていた八羽のシマフクロウが一カ所に集合して、人工繁殖を目指します。野生のシマフクロウは現在、北海道東北部に百羽程度しか確認されていないので、人工繁殖の成功が期待されます。

お母さんにしがみついているエラブオオコウモリの赤ちゃん



釧路市動物園に婿入りしたシマフクロウの「シマオ」。鴨池動物園時代から通算して35年間飼育されていた。



4月26日の朝、平川動物公園を出発する「シマオ」。二世誕生を待ってるヨ!

ソファに座るマルセル

(1928年)

サイズ(縦92.6cm×横74.1cm)

油彩・木炭・鉛筆・キャンバス

ジュール・パスキン(1885~1930年)



〈作者〉 1885年ブルガリア生まれ。父はスペイン生まれのユダヤ人で、母はセルビア生まれのイタリア人である。

初めウィーンで絵を習い、さし絵画家として売り出す。1914年アメリカに渡る。翌年ニューヨークで個展を開き、アメリカ国籍を得る。1920年パリに戻りベルト・ヴェイク、その他の画廊で作品を発表する。1928年エコール・ド・パリ展に出品、その哀愁と虚無と官能に満ちた画風で一世を風びした。また、そのデリケートなデッサンの線は識者の高い評価を得た。

私生活上は放浪と遊蕩の末、多くのスキャンダルの果て、パリ・モンマルトルに自らその45年の生涯を閉じた。

〈解説〉「憂愁と官能の画家」とはパスキンの専売特許のような形容詞であるが、なるほど、この作品を間近かに眺めれば眺めるほど、その特色をじかに感じ取ることができる。

淡い灰褐色の背景の中から若い女性の白い裸身が浮かび出る。半ば放心したような頼りなげなまなざし、その気だるい哀愁に包まれた命を確かめるかのように切れ切れに、しかし、細心の注意深さをもって描き起こされた描線が画面を引き締め、見る人の心に迫る。

彼の属したエコール・ド・パリ(パリ派)にはフジタ、キスリング、シャガール、ドンゲン、モディリアーニ、スーチン、ユトリロなど 今日われわれのよく知る作家が多く、それぞれユニークな作風をもって二十世紀前半、第一次大戦後の数年間にわたってパリの美術界を彩ったが、パスキンもまた、この作品に代表されるような一連の女性像をもって当時の美術ファンを魅了したのである。

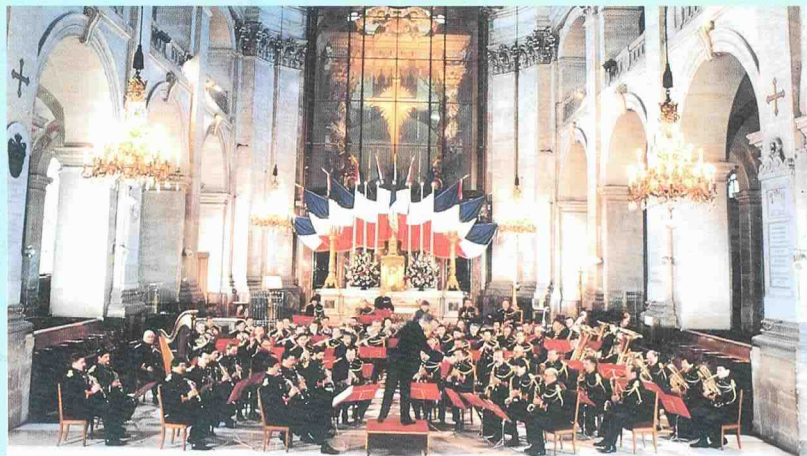
市立美術館館長

四藏典夫

魅力あふれる感動のステージをお届けします

(財)鹿児島市民文化ホール管理公社自主文化事業

自主文化事業は、鹿児島市の補助を受けて安い料金で提供する、公社主催の事業です。



指揮者……ロジェ・ブトリー

「管楽器の国」フランスの誇る パリ・ギャルド吹奏楽団

名実ともに世界最高の吹奏楽団

吹奏楽の神話を生んだ驚異のシンフォニックブラス

- 日 時……10月26日(火)・19時開演
- 場 所……市民文化ホール(第1)
- 入場料……S席6,000円 A席5,000円
B席4,000円
(高校生以下/A席3,000円 B席2,000円)
- プログラム……ボレロ(ラヴェル)、
ダッタン人の踊り(ボロディン)ほか



日本民族舞踊団

日本各地に古来から伝わる民俗芸能の華麗な舞台

- 鹿踊(しかおどり)、津軽じょんがら、阿波踊ほか
- 日 時……8月21日(土)・19時開演
- 場 所……谷山サザンホール
- 入場料……全席指定3,500円



松竹大歌舞伎

文化庁移動芸術祭歌舞伎公演

- 日 時……10月30日(土)・①13時30分 ②18時開演
- 場 所……市民文化ホール(第2)
- 演 目……仮名手本忠臣蔵(五段目・六段目)、お目見得口上、鶯娘(さぎむすめ)
- 出 演……澤村宗十郎・板東彦三郎・澤村藤十郎・市村家橘ほか
- 入場料……S席4,000円 A席3,000円 B席1,500円



アルバン・ベルク弦楽四重奏団

ウィーン音楽大学の教授により結成された、世界トップクラスの弦楽四重奏団

- 日時……11月15日(月)・19時開演
- 場所……谷山サザンホール

お問い合わせ／(財)鹿児島市民文化ホール管理公社 ☎57-8111

「市民フォト鹿児島」は、街や市政の話題を写真を中心にお届けしています。

理・美容院や医療機関、金融機関、官公庁などの待合所に置いていただいておりますので、お気軽にお読みください。本誌についてのお問い合わせは、鹿児島市役所広報課 ☎24-1111 へどうぞ。